

市民フォーラム通信

～第3回外部評価委員会～

平成24年10月27日（土）、市役所4階特別会議室で「狛江市外部評価委員会市民フォーラム～狛江について気軽に話し合ってみませんか～」を開催しました。

当日は、「地域の魅力を高めるまちづくり」と「青少年の自立と社会参加」という2つのテーマについて、市の取組を説明した後、狛江市外部評価委員会委員も加わって、4グループで意見交換を行いました。

■開催概要

- ・平成24年10月27日（土）午後4時20分から午後6時まで
- ・市役所4階 特別会議室（来場者12名）

○プログラム

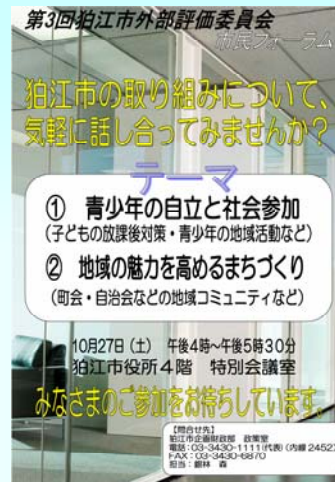
1) 施策レポート原案の説明

- ①「地域の魅力を高めるまちづくり」
 - ・質疑応答
- ②「青少年の自立と社会参加」
 - ・質疑応答

2) グループによる意見交換・結果発表

- テーマ① 「町会・自治会に加入する市民を増やすために必要なこと」
テーマ② 「青少年の健やかな成長に向けて市民ができること」

3) 総括（狛江市外部評価委員会副委員長 前田 成東氏）



■質疑応答（主なもの）

▼地域の魅力を高めるまちづくり

Q) 新たなコミュニティづくりというのは取組として具体的にどのような段階にあるのか？

A) 現在は、狛江市における新たなコミュニティの方向性をまとめた段階である。具体的な動きは、今後ということになる。

▼青少年の自立と社会参加

Q) この施策と教育委員会との関わりは、どのようになっているか？

A) 授業など教育活動としての取組は教育委員会、その他教育活動以外は、市長部局である児童青少年部が所掌している。いじめやひきこもりなどもそうだが、青少年に関する取組は部局同士又は部局間での連携が重要であると考えている。

Q) 子どもたちが最も多い時間を過ごす「学校施設」の環境に関して、市の考え方を伺いたい。

A) 学校施設という面では、ここのところ各学校の校舎や体育館の耐震改修等を行っているが、その際に子どもの健やかな育ちという視点が採り入れられているか、詳細は分からない。

Q) 回収した不健全図書は、その内容などのリスト化を行っているか？

A) 担当部署でリスト化したうえで廃棄している。

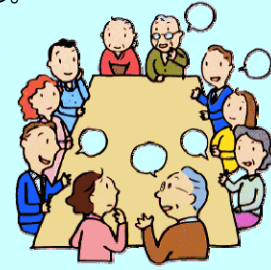
■グループによる意見交換・結果発表

テーマ①

「町会・自治会に加入する市民を増やすために必要なこと」

▼第1グループ

- ・高齢者や子どものことなど、近年社会的な課題となっているようなことに対し、町会・自治会の拡充のみで対応できるか、疑問が残る。
- ・もし、町会・自治会の拡充で対応するというのであれば、拡充により生じるメリットを具体的に示すべきである。
- ・現在は、町会・自治会と同じような活動を行っているNPOなどの団体も出てきている。
- ・活発に活動している町会・自治会やNPO団体などは、市としても整理して考えていくべきである。



▼第2グループ

- ・町会・自治会の活動内容を地域に知らせることが重要である。
- ・周知の手段として、活動パンフレットを作る、それを転入する方たちに配布する、そのほかに町会対抗運動会やお祭りなどのイベントの開催などを通じて、存在意義を高めていくことなどが挙げられる。



テーマ②

「青少年の健やかな成長に向けて市民ができること」

▼第3グループ

- ・青少年を取り巻く環境が非常に重要で、青少年に対して家族や大人がきちんとしたしつけを行うこと、青少年が相談できる人がいることが必要である。
- ・昔は、ガキ大将の存在や異学年交流があったが、現在はそれが少なくなってきており、青少年のコミュニケーションの機会も減ってきている。
- ・あいさつをすることも減ってきており、大人から働きかけることが重要である。
- ・教育理念がしっかりしている施設を利用している子どもは活発であることから、利用する施設の環境が大事である。
- ・大人同士のコミュニケーションやストレス解消も必要である。
- ・健やかな成長とはなにか？という議論があった。

▼第4グループ

- ・地域との関わりとして、地域が常に青少年を見守っている環境づくりが重要である。
- ・青少年に対して自治会のイベントなど顔見知りを作る機会を設ける、あいさつの声かけを行う、知らない大人に指導を受ける場をつくること（例えば料理教室などで知らない大人から指導を受けることなど）が必要である。
- ・家庭でゲームをする時間を減らし、脳トレや読書の時間を増やすことや、感動を与えるための「こころの勉強」を行うことが必要である。
- ・健康を保つことは重要であり、給食を自給自足として市内のものを消化する、健康のためのプロのサポートを受けることなどが必要である。

■総括

地域の魅力を高めるまちづくり

- ①町会・自治会だけでなく、テーマ別に活動するNPOも増えてきており、これらの団体のパワーを活かしていくことが重要である。
- ②町会・自治会の加入率を上げるには、地域によって実情が異なるため、きめ細かい取組が必要である。
- ③ただし、町会・自治会の性質上、市が主導し過ぎてもよくなく、その点を考慮して施策を展開する必要がある。

青少年の自立と社会参加

- ①市役所の仕事の多くは、1つの施策を1つの組織で対応しているが、市民の視点で考えると、対応すべき組織は必ずしも1つではない。例えば、青少年施策では、少なくとも児童青少年部と教育委員会、福祉保健部が関わる必要がある。
- ②青少年施策に限らず、施策に取り組むにあたっては、組織内での連携が大変重要である。

意見交換会で出された意見

(付箋に書いていただいた意見をそのまま記載しています。)

地域の魅力を高めるまちづくり

～町会・自治会に加入する市民を増やすために必要なこと～

～第1グループ～

加入しているが年会費のみ支払っている状態、つまり価値のある町会になっていない。

町会が酒や食べ物だけに使われているのは問題。

町会・自治会の意義について、そもそもリーダーの教育が必要。

未整備地区で困っていること・ニーズを調べ、そのニーズに对应して対応する。

町会が市会議室の利用の会になっているのは問題。

町会の単位を小さくし、ブロック別ぐらいのほうがいいのではないか。

町会・自治会の目的を明確にすべき。

町会・自治会と聞くと年配の方が多いイメージがある。それを払拭する方法はないか。

団塊世代向けの説明会を積極的に開催する。

加入することで得られるメリットのPR・広報を充実させる。

敷居が高いと思う人が多いと思うので、リーダー層を入れ替えられるよう努力・PRする。

古くからの住民は入会しているが、アパートの住人や若い人たちは関心がなく入会していないので別の取り組みが必要。

町会・自治会の設立（ノウハウ提供手段）。

～第2グループ～

自身の属しているところでは、毎年団地祭を行い、若い人も参加している。しかし普段は若い人はあまり見かけない。

加入する町会のパンフレットを作成して配布（転入者へも）。

加入している人はほとんど75歳以上の高齢者で若い人の入会を期待している。役員も高齢化していることから若い人には入会と同時に役員もお願いしたい。

1年～2年に1回でもよいので町会の行事を行う。

若い住民の方への取り込み（声かけをする）

転居してきた人の情報を町会に報告する（勧誘）。

楽しいイベントをして若い人を呼び込む。

宣伝活動・PRの工夫（宣伝場所など）。

地域の魅力あるイベントの開催。

- ・負担軽減のPR。
- ・個人情報厳守のPR。
- ・模擬で会社経営。
- ・災害備蓄品の情報提供。
- ・ご近所の方にあいさつをする。
- ・集団で加入させる。
- ・活動の多様化、質の向上。
- ・町会対抗運動会、ラジオ体操
- ・防災意識の向上

青少年の自立と社会参加

～青少年の健やかな成長に向けて市民ができること～

～第3グループ～

子育て中の親と子育てを終えた地域住人の交流も必要。親に子どもの行動に対して注意したことを伝えられる関係も必要だと思う。

あいさつをかわしやすい環境（気軽に声をかけ、親の顔が見られるよう、近所とのかかわりをする）。

まずは「おはよう」「こんにちは」の声かけができるようになれば、注意を受けても子どもは頭から拒否をしなくなる。

地域の目が大事。地域の人が地域の子どもを注意したりほめたりなど、声かけが大事。

地域の声かけは子供の非行の芽を摘むことにもつながる。しかし簡単に声をかけると不審者と思われるがそれでも続けることが大事。

～第4グループ～

味方がいる。家族以外に相談できる大人たちがいる。悪いことをしたときに怒ったり踏み込んで叱ることができない。

小・中・高の一貫教育、大学生と高齢者との交流。

中公生の料理教室など親ではない大人から学ぶ。

中学生・高校生を地域行事に参加しやすいように学校と協力する。

学童保育など共働き世帯の保護者、関係者との意見交換（家庭の様子を知る）。

変質者などの予防体制の強化（危機管理＝事前予防対策、各関係機関の体制）。

異なる年齢との交流がなくなった。ガキ大将にいろいろ教えてもらったが今はない。

団体行動・チームづくりイベントを年に2回。

児童館などで大人と子供の交流の場、大人と子どものたまり場をつくる。

自治会等のイベント等で地域住人子供が顔を合わせ顔見知りになることが大事

ゲームをする時間をなくして脳トレと読書の時間を増やす。

教育委員会・学校と行政の連携を緊密にする。

市民が学校に関わる機会を増やす。顔見知りを増やす。

大人同士のコミュニケーション、メールで解決。

- ・家族の時間を増やす。
- ・特区としての教育プログラム。
- ・模擬で会社経営。
- ・プロによる健康サポート。
- ・自給自足の徹底。（給食プログラム）
- ・感動を与えるこころの勉強会。
- ・商店・大人による見守り
- ・感動を与える「こころの勉強会」

市内在住有識者の学校等への講師派遣（ボランティア）。

悩みを相談できる人をつくること（個人・組織・身近な人・何でもよい）。